

もうひとつの働き方を選ぶための情報誌



東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合 <http://www.tokyo-workers.jp>

2023. 7  
July  
No.92



## 私の仕事術

### 公的な保険に加入できない 外国人労働者も診療

少子高齢化を背景に外国人の働き手が増えるようになって既に30年。多文化共生社会が必要と言われながらも、いまだに技能実習生の虐待や入管施設での不幸な事件が相次ぐなどその実現への道のりは遠い。

私たちの働く港町診療所では、1990年代から外国人の診療に積極的に取り組んできた。当時は人手不足の建設現場や中小企業で外国人が多数雇用されて働いていたが、多くは在留資格がなく健康保険がないために病状が深刻になり生命の危険にさらされる人が相次いだ。また、言葉の壁から事故防止策も不十分で労働災害被害も多数出ていた。私たちの診療所には横浜市内のNPOや市民団体からの相談が相次ぎこうした外国人の診療に取り組むことになった。

### 病院に行く際に直面する言葉の壁

高血圧や糖尿病を放置して心臓病や脳梗塞を引き起こすこともあった。病気は重くなつてからでは解決が難しくなる。できるだけ早期に発見して重症化を未然に防ぐべく外国人の集まる場に出かけて無料相談を開始した。出かけて行く先はカトリック教会や外国人集住地域の公民館などが主であったがエスニックレストランでの小規模な相談会などにも取り組んだ。

こうした相談会を通じてであったのが仲間の命を守るために積極的に取り組む外国人のボランティアたちである。また通訳技能を持った日本の市



昔の健康相談会の会場だった教会の様子

## 多文化共生社会の 実現を医療の現場から

港町診療所所長  
沢田貴志



●さわだ たかし●

港町診療所所長(神奈川県横浜市)。総合内科専門医として幅広い病気の患者さんの相談・治療を担う。外国人の無料健康相談、自治体と連携した医療通訳制度の構築、小児甲状腺がん検診などにも貢献。



港町診療所の外観



多言語の看板

民や学生さんたちも大きな力になった。

在留資格が切れて健康保険に入れない人の状況が最も深刻だったが、病院に行く際に直面する言葉の壁は、増えていた日系人や国際結婚で来日した人にも共通する課題である。受診時の言葉の壁に対して支援をする活動は、神奈川県社会福祉協議会が主催する医療通訳の勉強会へと繋がり、医療通訳派遣のNPO“MICかながわ”の結成、県の医療通訳制度の制定へと大きな流れとなっていました。当時開発途上国で深刻な問題だった結核やエイズの問題も医療機関・行政・NPO・ボランティアの広範なネットワークで啓発活動や検診・検査の機会を設定して日本にいる外国人の状況を改善することができた。

問題解決のためには、診察室の中に閉じこもるのではなく、社会の中の幅広い人々とネットワークを広げていることが時に必要である。とくに課題を感じている人々に寄り添う市民とのつながりを大切にすることが大切。それが私たちの仕事の流儀である。

### information

HPには「医師の英語による診療は毎日可能です。火曜日の午後は、特定非営利法人MICかながわより、スペイン語の通訳が派遣されております。沢田医師：タガログ語可。他の言語についてはご相談ください」と記載。



# 社会をつくり直す！

実践報告

File  
No.47

## 居場所「にわのいえ・もとまち(通称:にわには)」東京都国分寺市 地域発「ごちゃまぜ」から生まれる小さな経済

地域の空き家と庭を活用し、子どもからおとなまで誰もがもう一つの我が家のようにくつろげる「みんなのおうち」。家主と、安心して住み続けられるまちづくりに参加する人たちがつながって始めた居場所事業がスタートした。6月18日のお披露目会には子どもを含め100人ほどが訪れ、居心地のいい「にわには」での時間を楽しんだ。



### 広々とした庭とみんなのお家「にわには」

国分寺市東元町の閑静な住宅街にあるお宅の敷地（120坪）と築73年の建物を借りて始まった「みんなの居場所」事業。まずは何といっても広々とした庭（60坪）。楓や柿、大きく育った山椒の木などに囲まれ、中央は草花に覆われて広がる空き地ともいえる庭に目が行く。様々な草に覆われた空間は、多くの虫たちの住み家となっている事だろう。居場所の名前を「にわには」と名付けたみんなの思いが伝わる。

運営委員10人は地域に溶け込んだ居場所にしていくために庭と家の活用の仕方を話し合った。コンセプトの子どもからおとなまで誰もが気軽に立ち寄れる場所をめざすには、どんな場所にするか、何が出来るか、継続していくための事業をどのようにしていくかなどの検討を積み上げ、形と事業が固まった。

### 発信し続けたらつながった

運営団体「にわのいえ・もとまち」代表の杉浦真子さんは、NPO法人ワーカーズ風ぐるま\*の代表でもある。地域に誰もが立ち寄れる居場所を作りたいという夢は以前から持っていた。一方、2年ほど前に国分寺・生活者ネットワークに「うちの空き家を使ってなにかできないか」という相談が家主からあり、近くに住む杉浦さんに話がつながった。改修や準備に必要な資金は生活クラブ

### 継続は運営と事業計画

平日9時～17時開所し、運営委員を中心とした当番制で運営する。居場所の利用料は大人300円（フリードリンク付き）、こども無料。家賃は固定資産税相当分でいいという家主の意向がありたい。居場所はなかなか事業になりにくいが、地域のニーズは高い。「にわには」の取り組みがこれからの居場所のひとつのモデルになることは間違いない。自治体の空き家政策も重要な

つ待ったなしの状況だ。人と人がつながる、事業と事業がつながる、出来ることどうしが發揮される…こんなつながりの経済の実事業を作ることはわくわくする。資本主義経済を転換する力は、私たちが行動するこんな小さな事業体なのだと思う。

取材を通して、これからも地域に様々な小さな経済が作られることの意味を発見した。改めて、めざしていきたい希望を「社会的連帯経済」におき進みたい。

和田安希代（東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合理事長）



### ワーカーズ・コレクティブは「社会的連帯経済」の担い手

経済格差の実態が「世界の大富豪62人の資産が36億人分の資産と同じ（NGO協同オックスファム）」という驚きのデータで知らされた。経済成長の先に倅せがあると信じてきた資本主義経済が格差拡大と共に「気候変動危機」として、人類の生存危機に直面し、経済活動の転換が求められている。いのちに関わる資源を人々の共通財産とし、自治と連帯を基本とした持続可能な「社会的連帯経済」への転換である。多様な非営利事業の地域連携でまちづくりの力を強めることを描いた、もう一つの経済「社会的連帯経済」は主体的に考え行動する人々の集合体から始まる。ワーカーズ・コレクティブは「一人1票の運営」「資産の非分配」「非営利事業」を原則にし「社会的連帯経済」を担う事業展開を推進する。

# ワーカーズ・コレクティブ デポサポ 総会報告

## 労働者協同組合法の情報を共有

2023 年度から東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合の仲間になる「ワーカーズ・コレクティブ デポサポ（以下 デポサポ）」の第 2 回総会（2023 年 5 月 31 日）に出席しました。

デポサポは、デポーの運営を担う 10 のフロアーワーカーズの中間支援組織として 2022 年 5 月に設立されました。持続可能な組織運営のサポートとデポー事業を円滑に進めるための必要な業務応援や支援を行い、事業内容として一部、生活クラブ生協・東京の業務を受託しています。ワーカーズメンバーは 6 人、デポーをサポートするのでデポサポだそうです。

デポサポは、フロアーワーカーズ代表者会の事務局として、各ワーカーズの課題解決の取り組み、店舗運営ではリニューアルオープンやメンバー不足のデポーへの人材支援、業務会議への参加をしてきました。2023 年度は代表者会と共に新人メンバー育成について取り組みをすすめる予定です。

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合への加入は、他業種の状況を知り、特に労働者協同組合法の情報を共有していく必要を実感したとのことです。今後のデポサポの活躍に期待し、連携していきます。

武田一恵（東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合理事）



フロアーワーカーズでのキャリアをいかして活動するデポサポのメンバー

読んでみませんか！

### 『小さな起業で楽しく生きる』

全国各地のワーカーズ・コレクティブの実例を紹介。ワーカーズ・コレクティブのメリットや問題点、働く事への想い、働き方がわかります。また、ワーカーズ・コレクティブの作り方や、運営方法なども解説しています。

出版社：ほんの木 價格：1,400 円（税別）  
ご購入の連絡は、東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合まで



東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合情報誌「せれくと」No.92

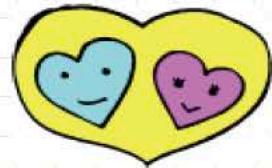
〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル5階  
TEL:03-3207-1941 FAX:03-3207-1945  
E-mail office@tokyo-workers.jp  
<http://www.tokyo-workers.jp>

発行日 2023年7月10日  
編集 ワーカーズ・コレクティブ 企画編集のもの  
年間購読料 600円（年4回発行）

# 東京ワーカーズ・コレクティブ共済会 「輪・和共済」

## 第39回総会を開催

1985 年、ワーカーズメンバー個人を対象とした相互扶助のしくみの自主共済として共済会が発足しました。営利を目的とせず自主的に運営しています。事業の柱は・共済事業（給付金・貸付）・福利厚生事業（親睦・サークル活動・支援基金）となっています。



また、勤続加入表彰を設けており、今年度は 10 年勤続 16 名・20 年勤続 5 名・25 年勤続 2 名・30 年勤続 4 名・35 年勤続 1 名が表彰対象となり、お祝金が贈られました。輪・和共済は、会員の「働く」を支えるための活動をすすめています。2023 年 3 月末会員数 619 名。2023 年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため休止していた親睦会なども計画しています。



コロナ禍の影響を受けた個人・団体への相互扶助への対応も報告された

### 紹介

## 東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合 ホームページ

労働者協同組合法の施行で注目が高まるワーカーズ・コレクティブという働き方の活動発信をしています。

「東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合は、東京を拠点に事業を展開するワーカーズ・コレクティブが組合員となって、互いの事業発展のために、出資し運営も担っている事業協同組合です。

ワーカーズ・コレクティブは働きたいという意思のある人が参加し、協同の精神でつくりあげてきた働く人の組織です」

- ワーカーズメンバー募集
- ワーカーズ・コレクティブって何？
- 所属団体
- 活動報告 など

東京ワーカーズについて  
もっと見る

各事業所の  
求人情報  
<https://tokyo-workers.jp/>

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合

検索

